

講壇点滴

教会の祈り

使徒言行録一第二章一―二五節

牧師 姜 俚 米

使徒言行録一第二章には、ヘロデ王による教会の迫害、ペトロの投獄、そのペトロが主の天使によって奇跡的に救い出されたこと、そして教会を迫害していたヘロデ王が、主の天使によって撃ち倒され、死んだことが語られています。初代の教会を襲った大きな危機と、神様の力強いみ手による守りが語られているのです。

教会において熱心な祈りがささげられているその中で、この奇跡は行われたのです。教会の祈りの中で、人間の力を越えた、神様の救いのみ業が行われたのです。祈ることがいかに重要なことであり、その中で神様の大きな力が発揮されるのだということを、このことは示し教えているのです。ただし、そこで勘違いをしないようにしなければなりません。ペトロの解放の奇跡は、教会の祈りの中で起こりましたが、それは祈りの力によって実現したことでないのです。この救いのみ業を実現したのは神様です。祈りは、神様を、ある目的のために動かす手段ではないのです。神様は、人間の祈りによって動かされ、何かをさせられる方ではありません。神様の救いのみ業は、恵みのみ心によって、神様が必要と思われる時に、必要と思われる仕方になさ

れるのです。それを人間がコントロールすることはできません。ペトロは、教会の人々が熱心に祈ったから救い出されたのではないのです。神様がそのことを必要と思われたからそのことは起ったのです。しかしこの救いのみ業が、教会の人々の祈りの中で行われたということには、大きな意味があります。

このことによって聖書が私たちに示そうとしていることが二つあります。第一は、神様が自由な恵みのみ心によって行なうてくださる救いのみ業に私たちがあずかることが、祈りにおいて起るということです。祈りは、神様を動かすためのものではなく、神様の自由な恵みにあずかるためのものです。祈ることが大切であるのは、神様の前に立ち、心を神様に向け、語りかけ、また神様のみ言葉を聞くこととする中で、私たちは神様の恵みのみ業を受け、それにあずかることができるからなのです。また教えられている第二のことは、私たちが祈って救いを願う求めることを待つておられる、喜んでおられるということです。神様は私たちが祈って助けを、救いを願うことを喜ばれるし、それ等待っておられるのです。私たちの言葉がどんなにつたなくても、自分の悩みや苦しみ、悲しみ、願い求めを神様に申し述べ、救いを願っていくこと、そのことを神様は喜び、待つておられるのです。そしてその祈りに応えて、私たちに本当に必要なものを与えてくださるうとしておられるのです。ペトロの解放の奇跡が、教会の祈りに挟まれて起ったと語られていることは、これらのことを私たちに教えていると思うのです。

(一月一二日公同礼拝)